



京都地域グループワンデイセミナーのご案内

「明日から実践できるメディアユニバーサル デザインの基本」

私たちは利用者に対して、日常業務でお知らせやイベントの案内をポスターやWebサイトで発信しています。

ポスターやWebサイトを作成する際にどのような色にしたら、文字のフォントはどれを使ったら伝わりやすいだろうか、と悩むことはありませんか。今回のワンデイセミナーではNPO法人メディア・ユニバーサル・デザイン協会の阿部浩之様を講師にお迎えし、メディアユニバーサルデザインの基本について学びます。

高齢者や色覚障がい者が抱える具体的な「わかりにくさ」や、誰にとっても伝わりやすい広報物にする具体的な配慮方法についてMicrosoft Officeの操作方法も含めてご講義いただきます。

オンライン開催になります。途中参加、途中抜けでも構いません。

ビデオや音声にお子様の声などが入っても構いません。どうぞお気軽にご参加ください！

日時： 2022年5月14日(土) 13時30分～15時50分

会場： オンライン(Zoom)

参加費： 無料

申込方法: <https://www.daitoken.com/kyoto/event/20220514.html>

申込締切: 5月11日(水)

講師: 阿部浩之氏 (NPO法人メディア・ユニバーサル・デザイン協会 理事
/(株)イワタ 取締役 第一営業部部長)

主催: 大学図書館研究会京都地域グループ

[目次]

京都地域グループワンデイセミナーのご案内	…	1
図書の紹介		
湯浅俊彦『電子出版学概論 アフターコロナ時代の出版と図書館』 (出版メディアパル, 2020)	長坂 和茂	… 2
会費ご納入のお願い	…	3
羊図書館雑記帳 ～MY BOOK～	…	4

○ ご意見・ご要望、投稿は下記、電子メールまたはURLへお寄せください。

電子メール: kyoto@daitoken.com (大学図書館研究会京都地域グループ)

URL: <https://www.daitoken.com/kyoto/index.htm>

図書の紹介
湯浅俊彦『電子出版学概論 アフターコロナ時代の出版と図書館』
(出版メディアパル, 2020)
長坂和茂

本書は長年電子出版と電子図書館について追いつけた著者による、アフターコロナ時代を見据えた電子出版と電子図書館の関係を示したものです。タイトルにある「アフターコロナ時代」とは「あとがき」の言葉を借りれば、「非接触型、非対面型、非来訪型の生活様式が新たな常態・常識となり社会の中に定着」(p. 217)した社会をさすと言えます。本書の出版は2020年11月であり、現在(2022年5月)と比較すれば状況に変化があった部分も多くありますが、むしろ、当時想定されていた通りにそういった新しい生活様式が常態・常識となったと言えるのではないのでしょうか。

まずは本書の構成に従って本書を紹介したいと思います。

第1章「アフターコロナ時代の出版と図書館」では、新型コロナウイルス感染症が出版及び図書館にどれだけの影響を与えたかを改めて示し、著者の所属する追手門学院大学の活動の紹介が行われています。

第2章「電子出版の基礎知識」、第3章「電子出版の歴史」については、電子出版と電子図書館の関係をそれぞれ定義や統計、歴史の視点から基礎的な事実の紹介がされています。

第4章「電子出版と出版産業」、第5章「電子出版と読書環境」では、電子出版を取り巻く様相が、出版社側、読者側のそれぞれの視点から紹介されています。

第6章「電子出版の未来に向けて」では長尾構想およびその後のNDLの政策と軸に出版業界と図書館界との関係性を「次世代の文化創造のために、出版業界と図書館界が競合ではなく、協同を目指すことが最も重要であろう」(p. 198)とし、両業界の協同を促しています。そして、最後に「長尾真の考え方をもう一度「発見」し直す時が来ている」(p. 199)として、長尾構想の再発見を促しています。

本書について最も重要な点は、本書は2009年に出版された『電子出版学入門』(出版メディアパル)の全面改稿版であるということです。電子出版学の入門書・概説書としての記述と、最新の情報を示しアフターコロナ時代の電子出版のあり方を提示した部分が混在しています。

アフターコロナ時代の電子書籍のあり方については、第1章に記述がまとまっていますが、個別の事情については特に第4章第3節「電子出版と著作権」および第5章第1章「電子出版と読書アクセシビリティ」において、最新の状況が紹介されています。第4章第3節「電子出版と著作権」ではこの時点で著作権法の大きな改正となっていた授業目的公衆送信補償金制度とSARTRASの設立が紹介されていますが、本書の刊行後に著作権法はさらに改正が行われ、NDLによる絶版資料の個人向けインターネット送信および各図書館などによる図書館資料の公衆送信が可能になったことは、皆様ご存じのことかと思えます。これらの改正により生活様式一般のみならず図書館事業も「非接触型、非対面型、非来訪型」が「新たな常態・常識」となったとも言え、今後、より出版業界との関係性も意識せざるを得ないということが出来ます。

第5章第1章「電子出版と読書アクセシビリティ」についても2018年のマラケシュ条約と著作権法改正および2019年の読書バリアフリー法成立といった法改正の状況が、法律面での電子書籍環境の整備につながっている状況が紹介されています。実際の電子書籍サービスでも読み上げに対応したサービスが和書電子ブックでも登場しており、電子書籍の展開がアクセシビリティの観点でも、メリットとなっています。

個別の事例としては、これらの点について知ることが、これからの電子書籍サービスの展開について検討するための材料となるでしょう。

電子書籍の世界では、所有権が移転する紙の図書以上に、出版社やプラットフォームとしての書店がより重要なステークホルダーになっています。著者が主張するように出版業界と図書館界の協同について今後よく考えていく必要があります、本書はそのための良き入門書・概説書となると思われます。

なお、本書に関連して、大学図書館研究会京都地域グループでは大学図書館研究会京都地域グループDXセミナー「アフターコロナ時代の出版と図書館」を2021年2月13日に開催しました。本イベントはDXセミナーとして開催し、開催形式としても「アフターコロナ時代」に合わせた形といたしました。

本イベントのライブセミナーの内容については、「アフターコロナ時代の出版と図書館 -大学図書館研究会DXセミナー講演とディスカッション-」として、追手門学院大学の電子図書館システムで以下のURLで著者によって出版されています。

<https://www.d-library.jp/otemon/g0102/libcontentsinfo/?conid=348895>

当日参加できなかった皆さんも、ぜひご覧いただければと思います。

ながさか かずしげ (京都大学 法学部図書室)

◇ 会費ご納入のお願い ◇

会員のみなさまにおかれましてはご健勝のことと存じます。

2016/2017年度(2016年7月～2017年6月)より、大学図書館研究会会費は、すべての会員の皆さまに、直接大学図書館研究会事務局へご納入いただくこととなりました。

一括徴収方式に移行いたしました。京都地域グループは年度継続の前に会費をご納入いただく前納があまり進んでいない状況でございます。ワンデイセミナーやグループ報は京都地域グループ費により開催・発行させていただいております。ご多忙のところ大変恐縮ですが、会費のご納入のほどよろしくお願いいたします。

会費は、¥7,000(大図研会費：¥5,000+京都地域グループ費：¥2,000)/年度です。

【振込先】

郵便局 00190-2-79769 大学図書館問題研究会

■銀行名 ゆうちょ銀行 ■金融機関コード 9900 ■店番 019

■預金種目 当座 ■店名 〇一九(ゼロイチキュウ店) ■口座番号 0079769

ご不明な点は大学図書館研究会事務局(会費担当)(kaihi@daitoken.com)までご連絡ください。

※ 学生会員制度(試行)として、学生の方には特典をお渡ししております。

詳細は京都地域グループ Web サイトの「学生会員制度の試行について」をご覧ください。

『羊図書館雑記帳』

水知せり様に大学図書館に関するマンガ掲載第4話です！応援コメント・ご感想などお待ちしております！

作者：水知せり

今年の春は長いように思います。

といっても、いつもあっという間に季節は過ぎていくもので、せめて読んだ本などを記憶に残しておきたいところです。

最近では電子で本を読む機会も多いのですが、こまごまとした資料もダウンロードできて保存もそのままできるので便利だと思う反面、整理整頓が苦手な性分なので、しょっちゅうPC内検索をかけています。

こまめに整理整頓を心掛けて、今を楽しみつつ、少し先の実りの季節を豊かに迎えられると思います。

MY BOOK

